

確実に成果をうむ

実験の考え方と 記録・実験ノートを取り方

開催日時 **2025年 8月27日(水)** オンライン
2026年 2月13日(金) オンライン 各回とも 10:30~16:30

対象 • 研究・開発部門の実務担当者 • 若手研究者に指導する管理者・リーダーの方

講師 **奥村 治樹 氏**
ジャパン・リサーチ・ラボ 代表

参加料(税込)

法人会員：55,000円/1名
会 員 外：66,000円/1名

※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。
※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。
<https://www.jma.or.jp/membership/>
※お申込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申込みください。

ね ら い

研究開発においては、適切な実験方法の検討はもちろん、適切なデータ解析や、知財化・権利化が必須であり、そのためには「記録」が重要であることは言うまでもありません。

近年は機器類の発達で実験データを容易に得ることができる反面、無計画に実験を行って、日々増えていくデータに溺れてしまっている状況が生まれています。

研究者は目的に合わせて実験を計画し、データを取得・解析し、それらを記録し、まとめることを正しく行わなければなりません。しかし、多くの開発現場では実験実務に関する教育はほとんど行われていないのが実態です。

自己流の方法に頼り、人員/部署間でのレベルのバラつき、共有性の欠如といった問題がおき、最悪の場合、権利化におけるevidenceとなりえないことも想定されます。

そこで、この状況を打開し、**確実に結果を成果へと昇華させ、より効率的な開発を実現するために必要な知識を、特に実験ノートに代表される記録に重点を置いて**詳細に解説します。

本セミナーで修得できること

- ☒ 実験の考え方
- ☒ 実験計画の立て方
- ☒ 実験ノートの書き方
- ☒ 記録の使い方
- ☒ 情報整理

参加者の声

- 実験ノートに残しておかないといけなかったことがぼんやりとしかわかっていませんでしたが、セミナーを受講しはっきりした。
- 開発プロセスの認識と、実験する上での心構え等最近はあまり意識していなかったことがとても大切なんだと感じた。
- 具体的に、実験ノートに何を書けば良いのか、自分自身の修正点を確認することが出来ました。現状、個人所有のノートになってしまっているため、組織として改善していく必要性を感じました。
- 誰が見ても実験の目的や、検証内容が理解できるようにノートを残さなくてはならないことがわかりやすく説明されており、まずは取り組んでいきたい。
- 実験ノートの取り方のまに、取ることの大切さ、研究者としての在りかたを学ばせていただけたことがとてもありがたかったです。

■ プログラム

10:30~16:30 [昼食] 12:00~13:00

1 イン트로ダクション

2 実験計画の考え方

3 実験の基本と心得と実験ノート

4 実験ノート

5 データ解析

6 研究開発のための思考

7 仮説思考による研究開発と問題解決

8 まとめ(研究者の心得)

※プログラム変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

